

多言語多文化研究に向けた複合型派遣プログラム  
派遣研究報告書

2012年 10月 30日

派遣者氏名（専門分野）	成定 洋子	（文化表現論・日本学）
-------------	-------	-------------

下記のとおり報告します。  
記

研究テーマ	歓楽街浄化活動に関する社会人類学的研究： 英国における歓楽街の歴史・社会文化的変遷をめぐって
-------	---

派遣期間

2012年 7月 30日 ～ 2012年 9月 27日

	国	都市	訪問機関	受入研究者
訪問 研究 機関	英国	エジンバラ	スコットランド国立図書館	特になし
	英国	ヨーク	ヨーク大学女性学センター	ガブリエル・グリフィン教授

派遣先で実施した研究内容

1. スコットランド国立図書館における文献調査

スコットランドにおける売買春に関わる赤線地帯及び赤線地帯で働く労働者に関する文献を収集した。スコットランド政府は、過去十年ほど、女性に対する暴力を廃絶する方針を表明しており、様々なNGOやNHS（国民健康サービス）の機関において、女性だけでなく、男性セックスワーカーなど身体的暴力や性暴力に遭うリスクのある人々に対する支援活動を積極的に行ってきており、スコットランド政府の助成金による報告書も多々発行されている。今回は、他では入手しにくいグラスゴーとエジンバラにおける赤線地帯に関する報告書を中心に文献収集を行った。

同時に、エジンバラにおける複数のNPOに聞き取り調査を行い、政府方針に沿った一般的な女性支援や売春防止を謳うNPOが助成金を得やすいのに対して、売春を「仕事」と見なし、積極的にセックスワーカーを支援するNPOに対しては、政府資金が凍結され、セックスワーカー支援が困難になっていることが明らかになった。

2. ヨーク大学女性学センターにおける文献調査と理論研究の整理

ヨーク大学女性学センターでは、英国における歓楽街と売買春に関する先行研究を文献収集するとともに、全体的な理論研究を整理した。理論整理においては、女性学センターのガブリエル・グリフィン教授とスティヴィ・ジャクソン教授のご指導を受けながら、グラスゴーのストライド大学のアン・スクーラー准教授にもご教示いただいた。

今後、沖縄本島で予定している歓楽街研究の理論的礎を築くことができた。特に、歓楽街を外部として位置付けるのではなく、公共圏を形作る共同体の一部として考察する可能性を切り拓くことができた。

### 3. エジンバラにおける聞き取り調査

ヨーク大学女性学センターのスティヴィ・ジャクソン教授のご紹介で、スコットランドでセックスワークと法の関わりについての研究を行ってきたアン・スクーラー准教授（ストラトライド大学、グラスゴー）からスコットランドにおける歓楽街と浄化の状況について伺う。さらに、NPOの職員やボランティアに聞き取り調査を行い、女性への暴力阻止のスコットランド政府方針が全女性を犠牲者化する傾向があるために、スコットランドにおけるセックスワーク支援の現状が極めて困難になっていることを明らかにした。

## 研究の当初の目的・計画の達成状況、明らかにできた成果

本研究の当初の目的と計画の達成状況、明らかにできた成果は下記の通りである。

- ① セクシュアリティ研究で名高いヨーク大学女性学センター（Centre for Women's Studies, University of York）において、地理学、人類学、社会学、法学、政治学、犯罪学、ジェンダー・セクシュアリティ研究などの調査研究、雑誌や新聞などの記事、英国政府や各自治体の報告書等の文献のなかで、戦後の英国において、歓楽街・赤線地帯・売買春がどのような「コミュニティ」との関係を構築してきたのか、「コミュニティ」がどのように位置付けられてきたのかについて、文献調査を行う。

#### 【達成状況と明らかにできた成果】

「コミュニティ」を軸に、文献調査を行い、歓楽街や赤線地帯の浄化がどのようにコミュニティ自体だけでなく、コミュニティの意味や概念を変化させているのかについて、英国における歓楽街研究をもとに明らかにした。

- ② コミュニティにおけるセックスワーカーと住民との関係を理論的・方法論的・実践的に長年模索してきた、英国のセックス・ワーク研究の第一人者であるダラム大学応用社会科学学部のマギー・オニール教授に師事し、①の文献調査を基に、本研究だけでなく、来年度科研申請予定の「現代沖縄における歓楽街浄化活動に関する社会人類学的研究」のための理論的・方法論的視座を模索する。

#### 【達成状況と明らかにできた成果】

勤務の都合上、訪問時期を二月～三月から七月～九月に変更したため、ダラム大学に行く計画を変更し、ヨーク大学女性学センターのセクシュアリティ研究者であるスティヴィ・ジャクソン教授に師事し、公共圏として歓楽街を位置付ける理論的枠組みの草案を構築した。

- ③ ヨーク大学女性学センターのセミナーとダラム大学において本研究の途中及び成果発表を行う。

**【達成状況と明らかにできた成果】**

訪問時期が夏休みになったため、セミナーが開催されておらず、ヨーク大学で発表を行うことはできなかった。しかし、下記の国内外の研究会と学会において、発表を行う予定である。

**派遣後の研究発表の予定**

2012年10月27日（土） セックスワーク研究会、京都大学人文科学研究所

2013年1月9日（水） 地域研究会「マイノリティとジェンダーの視点からみる人口流動：教育資料開発にむけて」、東京学芸大学

2013年8月5日～10日 17th IUAES (International Union of Anthropological and Ethnological Sciences) World Congress, Manchester, UK.